瓦谷山だより

vol.5

発行日　2007年9月吉日
発行人　（宗）真光寺
　　岡本和幸
印　刷　現代社
編　集　（宗）真光寺

問い合わせ先
（宗）真光寺
TEL 0438-75-7414

ご挨拶

今夏は暑い夏でした。三十五度を超える日がこれ程続く夏は経験がありません。「地球温暖化」が叫ばれて随分経ちますが、いよいよ実感するようになってきたように思います。手遅れになる前に一人一人が努力を惜しまず、また今よりも未来を見つめる視点が重要だと思います。

人にとっては暑すぎる夏でしたが、草花にとっては水さえあればこの程度なら例年以上にぐんぐん成長していきます。私たちの田んぼは、四年間の努力の結果として湧き水をふんだんに手に入れることが出来ましたから水の心配はありません。今のところ素人とは思えない出来映えです。もちろん地元の皆様の指導の下、担当の上田の超人的努力の賜物ですが、無農薬栽培が少しずつ形になり、化学肥料を使わない有機栽培へとさらに進化しつつあります。本誌が皆様のお手元に届く頃には収穫の時期になっていることと思いますが、今年の結果が楽しみになってきました。

千葉県は重い腰を上げて、県内の残された里山の調査を始めました。調査しなければならないほど希少価値になってきているのです。川原井新田の奥の谷は県内では希少な里山の姿が保存されている場所です。この姿を守ってきた先人の努力を誇りに、今の営みを自信にさらに次の世代へ伝えていく気概を持って小さな努力を続けていきたいと思っています。来春には蓮華草を蒔いて有機栽培をさらに進めます。春、蓮華畑に遊んだ昔を取り戻したいと思っています。水芭蕉のある谷の開墾も進めています。さらにはこの希少な場所に日本の伝統的な農と職能に興味を持つ若者を集めていきたいと願っています。今秋には陶芸の技能を持つ若者が工房を構える予定です。皆様のご助力、ご協力をお願い致します。

私自身は東長寺住職として忙しく、東京と川原井を行き来する日々を送っています。東長寺檀信徒の皆様の期待にも応えねばならず、身一つではとても足りぬ毎日です。さらには九月より本格的に真光寺縁の会のご案内を始め、新聞雑誌等に情報を掲載していきます。案内看板等も整備されます。これに伴い東長寺のスタッフ数名が真光寺に加わりますので見慣れぬ顔がさらに加わります。縁の会毎月の定例会も十月より開始します。おとづれる人も増えていく予定です。伽藍も少しずつ形になってきました。これまでの努力が一つずつ形になっていきます。それは平成六年に私がこの地に移住する以前の、平成元年に東長寺執事となった時から繋がった形です。沸いて出たものではありません。すべての形が繋がりあって未来へと円満に続いていくよう、皆様のお力をお借りし進めていきたく何卒よろしくお願い致します。

合　掌

住職　岡本　和幸

開創四百五十年記念事業

◆伽藍建立工事の現状報告◆

前回の寺報（vol.4 七月発行）から引き続いてのご報告です。

七月の参議院選前、選挙カーが町を賑やかにしていた頃、秋田の工場から資材が届きました。

レッカーを使って太く重い梁等を吊り上げながら作業をしていると、瞬く間に軸組が完成していきます。これは工場で予め加工を施してあるので、組み立て作業に専念出来るようです。

■方丈垂木（左上）
軸組が終わると垂木を渡していきます。その後野地板を張って屋根の下地を形成します。

■方丈瓦葺き（左下）
観音堂は本瓦でしたが方丈は桟瓦葺きです。

■方丈軸組（右上）
10tレッカーと共に梁組をおこなう。

■方丈軸組完成（右下）
1週間ほどで軸組が完成。

◆鬼瓦◆

方丈の屋根に鬼が住み着きました。

鬼といっても鬼瓦のことで、撮影時点では鬼面のみが居座っています。

鬼面にも「鬼面」「古代鬼面」と種類があって、方丈に取り付けられたものは「古代鬼面」です。「古代鬼面」は読んで字の如く古い時代の鬼面です。それから時代と共に顔の作りに変化が生じ、江戸時代頃には角が生え、よりリアルな鬼の顔「鬼面」となっていったようです。

また、鬼面には男と女があり、これは中国の陰陽学から来ているといいます。男は口を閉じ陰とし、女は口を開き陽とする。何となく納得できる様な気がしませんか？

古代鬼面には陰陽はありませんが、魔よけの意味を持つ鬼面に、今後真光寺に降りかかる悪しきことから守って頂きたいと願うばかりです。

◆宮大工さん◆

普段接することのあまり無い（殆ど無い）宮大工さん。その素顔に迫ろうとインタビューを決行しました。作業の合間にお話しをお伺いしたのですが、話が面白かったのでついつい長話に…　と、いうことで二回に分けてご報告致します（笑）

嫌な顔もせずに談笑させて頂きましてありがとうございました。

熊谷さん（奥）と大西さん（手前）

佐々木ご兄弟
（右がお兄さん、左が弟さん）

※今回棟梁である伊藤さんがいらっしゃいませんでしたが、チームワークはバッチリ！仲が良い雰囲気が伝わって来ました！

杉山さん

宮大工さんインタビュー　～前編～

陽の照りつける下で作業をしていた宮大工さんたち。この夏の暑さは秋田出身の体にはさぞ堪えたことと思います。

※熊は熊谷さん・杉は杉山さん・兄は佐々木お兄さん・弟は佐々木弟さん
本文ではなるべく語り口調（秋田弁）を表現しようとしていますが、一部標準語訳をしています。（笑）　（敬省略）

Q：木材は湿気や乾燥などで形が変わっていきますが、建物を建てる時はどの位先を見越して今の形を決めているのですか？

熊：難しい質問だなぁ。（笑）

杉：出来上がるまでにどのくらい狂うか、出来上がった後どのくらい狂うかという事になるなぁ。それはもう長年染みついたカンだもんなぁ。この木はどっちさ曲がっていくかなぁって、実際狂ってってみないとわからないなぁ。

熊：正直言って大工にも木がどの位狂うって細かいとこまでは予想がつかないからなぁ。

Q：そのカンが身に付くのにはどの位の期間を要するのですか？

杉：そんなかからないなぁ。弟子上がりすればだいたいできるべさ

Q：弟子上がりの期間っていうのは決まっているのですか？

杉：今はそんなに長くないなぁ。最初は五年。俺らの時からが四年かぁ。訓練校で一年教ぃえてもらって見習い期間が四年で全部で五年だぁ。

熊：まぁ、何の仕事でもそうだども結局本人がやる気あるかないかで違いは出てくるなぁ。

Q：大西くん（推定年齢二六才）みたいな若い子は結構いるのですか？

熊：普通の在来工法とかの住宅建てる大工さんとかはそういないなぁ。やっぱりこういう社寺建築の専門の会社には若い人が入るんだよなぁ。

兄：うちらの時は三年間師匠の家さ泊まって教ぃえてもらった。

熊：昔は仕事教ぃえてもらうために行くだけだから、家から自分の食べる米と味噌を持っていって、ご飯はそれを食べて、（師匠からは）お金なんて全然もらわない、昔はなぁ。

兄：お金ないからどこにも遊びにいけないの、日曜とか。おやじのばぁさま（師匠の奥さん）がお小遣いくれるの。

Q：遊んできなさいってお小遣いくれるんですね？

兄：あまりくれないの、少しだけ。（笑）

Q：男同士で仕事も一緒、生活も一緒（プレハブ小屋で暮らしている）で仲良くやっている秘訣は？

杉：わがままましない事なんだべなぁ。

熊：たまたま、うちらのチームは性格のいい人があつまったんでねえかぁ？やっぱり性格の悪い人がいれば喧嘩になるし。うちらは比較的おとなしい人達だからさぁ。（笑）

Q：宮大工を辞めようと思ったことは？

熊：宮大工つってもその前は普通の大工さんだから、最初っから宮大工でないんだぁ。

杉：住宅大工

Q：さらに勉強して宮大工になるんですか？

熊：ある程度ね。まぁ、なんにしてもそうだけど基本があって、その基本が解ってればあとは応用だからなぁ。基本がしっかりしてればそんなに難しくない。

杉：宮大工といっても一般の家さ仕事しないわけにはいかないもんなぁ。宮大工は宮大工だと思ってたけども。

弟：宮大工は特殊な仕事だと思ってた。普通とは違ったなぁ。

杉：道具はいっぱいあるなぁ。

弟：道具が全然違う。数も多いしぃ種類も多い。

Q：ものすごく時間もかかりますよね。建物ができた時っていうのはどんな感じなのですか？

杉：満足感だべなぁ。

兄：自分の手ぇかけた所は良くやったなぁ、やって良かったなぁ、っていう…。

熊：うちら秋田から来て千葉とか茨城、福島も行ったな。そういう所は滅多に行かれないから見られないけど、地元で作った楼門だの鐘楼堂は車で行けば見られるからたまに行って見るんだよ。やっぱり”いいなぁ～”って思うんだよ。自分で手ぇかけたしね。鐘楼堂は新聞にも載ったけども秋田県内でも最大級だってぇ。

（次号に続く）

＊秋田県横田市『西法寺』鐘楼堂

里山再生活動

今現在（八月三十日）、川原井周辺の田んぼでは稲刈りが始まっています。真光寺の田んぼの隣の谷津でお米を作っている上（かみ）のおじさんの田んぼは稲刈りももう終わり、既に来年に向けて田んぼを耕しています。当の真光寺の田んぼと言えば、例年通り九月中頃に稲刈り予定です。

真光寺と上（かみ）のおじさんが耕作している谷津は全体で約8.2haあります。現在水田利用されているのはこの内10％未満0.78ha、また耕作放棄された水田は0.42haになります。全体で見ても、15％未満しか水田利用はされていません。少ないように思われるかも知れませんが、この面積割合が絶妙なのかもしれません。山林部に溜まった地下水はこの夏の日照りの中でも沢山の水を田んぼに供給してくれました。だからといって手放しには山は水を分けてはくれません。笹で覆われた梁を刈り、放棄田を開墾し水路を作り直す…。一見途方も暮れるこの作業をしっかりとおこなわなければいけないのです。担当の上田（写真）が米作りと並行してこの地味で労力のかかる作業をおこなっているからなのです。（余りの大変さに耕作放棄したくなる気持ちは判る様な気がします）

また、谷津には日向の斜面や日陰の斜面、前述の水量に恵まれた水路、溜池など、様々な環境があり、それらに生息する多種多様な植物、動物、昆虫が集まってきます。お米作りをすることによって谷津全域が多種多様の生物との共生が生まれるのだと実感でき始めています。

生き物の種類・量が増えるに連れて、再生活動の参加者も増えてきています。最も遠くからはなんと鳥取県米子市（！）から。こちらも多種多様となってきています（笑）

まだまだ素人米作りですが、ご指導の程宜しくお願い致します。

■担当の上田氏
「稲のたくましさと何千年も繰り返されてきたこの営みには素直に驚きます」と語る。

■ヨシノボリ
今年はたくさん見られるようになりました

■再生活動
各地から集まった有志です。

■収穫を待つ谷津田（8月28日撮影）
左は真光寺、右は高吉さん（通称、上（かみ）のおじさん）の谷津田
手前はタコノアシ（開花中！）

■出穂（7月26日撮影）

■稲の花（7月31日撮影）

■頭を垂れる稲穂（8月20日撮影）

行事報告

◆山門大施食会法要◆

説教師に西田正法老師をお招きし、施食会法要が行われました。

当日は大勢の檀家さんがお見えになり、また沢山のお供物を頂きましてありがとうございます。

墓地を掃除し、新しいお花を飾り、新しい塔婆を立て、お線香の煙が立ちこめる…毎年繰り返されるこの行事に夏を感じます。

■祭壇
沢山のお供物と塔婆が並びます。

■施食会法要の様子
説教師　西田正法老師

■施食会法要の様子
12人の僧侶と共に先祖供養をおこないました。

◆寺掃除◆

今年の夏は暑かった…そう、あの日も例外では無かった。

朝、太陽はいつものように東の空から昇るとエンジン全開！元気いっぱいで、これから行うことを考えるとちょっと憂鬱にさえ思えた。

真光寺の敷地は約一万坪あり、五月・七月・八月と毎年定期的に草刈り、草取りをおこなっている。主役は檀家さん。住んでいる地区で三班に振り分けさせて頂いているのだ。七・八月と二ヶ月連続なのは夏場の草の伸びが早いから…、あっという間に草で埋め尽くされてしまうからだ。

朝八時頃、何も言わずして各人が持ち場（好きなところ）に散る。そして、一台の草刈り機のエンジンに火が入るのを合図に、約三十台のエンジンが一斉に唸り始める。…圧巻…見る見るうちに草が刈られ綺麗になっていく。

一方本堂前の庭では女性陣を中心に手作業による草取りが進められている。こちらは植え込み等があるため草刈り機でエイッ！という訳にはいかない、地味で大変な労力を要求される。

約二時間の作業を終えると境内地は今までの中で一番綺麗になっていた。

休憩時間や作業の後に皆さんと談笑させて頂く中で、皆さんの濡れたTシャツと笑顔がとても爽やかで格好良かったです。

当日の気温はは三二℃を越えていました。こんな猛暑にも関わらずありがとうございました。

■寺掃除（上）
急斜面でもグングン刈っていきます
■寺掃除（中）
約2時間の作業が終了「お疲れ様でした」
■寺掃除（下）
作業が終了し、本堂で一息

行事予定

［檀信徒］

●修正会法要　平成二〇年一月三日（木）午後二時より

●婦人会ご詠歌練習日（どなたでも飛び込みで参加できます）

十月　九日（火）・二三日（火）

一一月一三日（火）・二七日（火）

各回　午後七時半より真光寺本堂にて

一二月一一日（火）：忘年会

※新年最初の練習日は忘年会の時にお知らせします

［縁の会会員］

●七日法要　季節の行事予定

「収穫祭」　十月七日（日）

「植樹祭」　十一月七日（水）

「懺悔会・大掃除」　十二月七日（金）

「修正会」　平成二十年一月七日（日）

●次第（行事内容等により、時間が変更になる場合がございます）

午前一〇時三〇分　当山集合・当日の説明

一一時　授戒式・月例追善供養法要

一二時　昼食

午後　一時　季節の行事

三時　解散（希望者は里山の散策ができます）

※電車での参加の方には送迎を致します。（要申込み）

（JR内房線姉ヶ崎駅　改札口　午前一〇時集合）

［里山再生活動］

「収穫祭」

日　時　十月二十日（土）・二一日（日）

集合場所・時間　真光寺・午前一〇時

※電車での参加の方には送迎を致します。（要申込み）

（JR内房線　姉ヶ崎駅改札口　午前九時三〇分集合）

費　用　一泊二日　六千円（保険代・食費含む）

特　典　参加回数当たり二キログラムの新米を差し上げます

服　装　動きやすく、汚れても良い服装

申し込み方法　satoyama-info@earth-work.info

又は

FAX 0438-75-7630　までお申込み下さい

尚、参加申込みは十月十五日（月）〆切とさせて頂きます

―お知らせ―

※昨年は20俵（約1200キログラム）のお米が収穫でき、今年はおおよそ40俵の収穫が期待できます。昨年同様、除草、殺虫剤を使用せずに体に優しい米作りを目指しています。

お米の販売予約も受け付けていますので、真光寺までお問い合せ下さい。多くの方に食べて頂ければ嬉しいです。

問い合せTEL 0438-75-7365

（収益金は里山保全活動費に充当します。）

※田んぼ管理者・上田さんが日々の田んぼの手入れや様子を綴っているブログがあります。是非アクセスしてみて下さい。

【瓦谷山たより】

http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/